

市長から 市民のみなさんへ 51



山陽小野田市長 白井 博文

(※今回は5月30日に厚陽公民館で行われた、市政説明会最終日でのごあいさつからお届けします。)

私にとっては“歯ぎしり予算”

確かに両市町がかつて取り組んできた大型事業には、事業評価すれば有用と言えないものもあります。例えば有帆緑地の事業は毎年1億7千万円の返済があと15年残っています。事業が終わり、国への借金だけが残っているという感想を持たざるを得ないものの一つです。もし仮に、その1億7千万円を他の事業に充てることができれば、どれほど市民のみなさんが必要としているものに使うことができるでしょう。今年の予算は「崖っぷち」と名付けましたが、私の心の中は「これではまるで“歯ぎしり予算”ではないか」と悔しい思いでいっぱいでした。まだ財源の手当ができず、予算化できなかった積み残しのものがあります。再来年の3月までに健全化すると国・県と約束した山陽市民病院へ繰り入れるお金、平成19年度分の2億円も全額計上することができませんでした。これは、「いこいの村江汐」を手放すことにより得たお金で穴埋めすることになりそうです。

一緒に考え、一緒に汗を

1市1町の合併を振り返って、評価はどうかという質問を2,3の会場でいただきました。想いはいろいろありますが、もう振り返ることは許されない時期と思います。新しいまちづくりに市民の多くの方



▲市政説明会のようす

対話の日

※いずれの会場も19:00から



6月28日(木) 緑が丘自治会館
7月12日(木) 大持集落センター
7月26日(木) 下木屋自治会館

のご協力をいただいています。私も人間機関車のように先頭に立ってがむしゃらに走り続ける日々です。県下最悪の実質公債費比率（借金返済に充てる割合）を減少させていくことが出来るのかという疑問の声もいただきました。地方交付税の減少、大量退職に対する退職金の負担など、財政を取り巻く環境は厳しさを増す一方です。そういった中で、「借金も財源」というこれまでの甘い認識を捨て、人件費を切りつめ、事業を取捨選択し、また市民のみなさんにも我慢をお願いすることで、何とか財政を健全化させたいと考えています。市民のみなさん、今こそ、山陽小野田市の未来を信じてください。そして、ふるさとの未来のために、一緒に考え、一緒に汗を流してほしいのです。

今回の市政説明会のもう一つのテーマ「自治基本条例」については、市民、議会、行政が本来あるべき役割を果たし努力すれば、必要ないのではないと言われる方もいらっしゃいます。私も三者のあるべき関係の構築が先と当初は考えていました。しかし、今は、市長になって断片的に取り組んできたことを自治基本条例を通じて制度化するべきではないか、市長が代わっても山陽小野田市に市民と行政、議会の良好な関係に立ったまちづくりのための、一本の太い柱のようなものが必要なのではないか、そう考え、こうして市民のみなさんに自治基本条例の必要性を訴えることにしました。この条例は市民のみなさんの手で内容を作っていくものです。一人でも多くの方に「自治基本条例をつくる会」に参加していただき、まちづくりの力となることの喜びを共に実感してもらいたいと願っています。本日は市政説明会にご参加いただきありがとうございました。